

令和7年度当初予算、令和6年度3月補正予算概要

令和7年度当初予算は、第8次敦賀市総合計画の成果目標である「将来を見据えた人口減少対策（好循環モデル）の実現」に向け、全庁的に人口減少対策を推進するとともに、北陸新幹線敦賀開業の効果を最大化・持続化できるよう、敦賀のまちづくりを進めるための予算を計上しました。

予算編成に当たっては、国県支出金の積極的な活用を図るとともに、事業目的に応じ、ふるさと応援基金等からの繰入を行いました。また、国の補正予算にあわせて事業の一部を令和6年度の補正予算に前倒しすることにより、事業の着実な推進を図りました。

その結果、新年度の予算規模は、前年度と比較して一般会計は0.4%の増、全会計では0.1%の減となりました。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配布した資料のとおりですが、予算編成の重点施策ごとに主な事業等を申し上げます。

はじめに『子育て・教育』です。

結婚を希望する方が誰でも、その希望を叶えることができるよう、「職場間の出会い」に焦点を当てた異業種交流会を開催し、出会いの場の創出等を支援します。

地域の中ですべてのこどもたちが安全安心に生活できる居場所づくりのため、こども食堂や学習支援等に取り組む団体への支援をします。

小学校にネイティブスピーカーの外国語指導助手（ALT）を配置し、児童の英語によるコミュニケーション能力を育むとともに、外国の文化・習慣に触れる機会を創出します。

人道の港敦賀ムゼウムにて国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と連携し、「現代の難民問題」をテーマとした小学校高学年向けのワークショップ等を実施することにより、世界情勢に関する市民理解の促進を図り、平和の尊さ、

命の大切さについて、改めて考える機会を創出するとともに、本市ならではの教育体験を通してシビックプライドの醸成につなげます。

次に、『定住・移住』です。

つるが移住定住サポートサイトをリニューアルし、移住希望者向けの情報発信強化による移住の促進とともに、本市と都市部での暮らしや働き方の比較など、データに基づく実態を発信することにより、若者の定住やUターン促進につなげます。

次に、『地域経済』です。

「敦賀まちづくりアクションプログラム」の主要プロジェクトである氣比の杜整備構想の策定をはじめ、神楽通りの再整備や金ヶ崎エリア公園整備等に係る経費を計上しました。

敦賀が誇る歴史や文化、暮らしの中に点在するキーワードやコンセプトを洗い出し、これまでとは異なる視点からそれらを結びつけ、敦賀の魅力を深掘りする新たなストーリーを生み出します。さらに、その成果の書籍販売等を通じ、より広く敦賀文化を発信し、全国からの誘客に繋げるとともに、本市を訪れた観光客の一人ひとりの関心に合った周遊を提案します。

大規模な営農を支援する取り組みとして、株式会社ミライスつるが氣比が導入する乾燥調製施設の建設を支援します。

次に、『安心と暮らしやすさ』です。

日常の移動が困難な交通弱者を支援するため、一部地域に居住する高齢者を対象とし、新たな移動手段の実証事業を行います。

余暇の充実、健康増進等に向け、都市型スポーツを体感できる施設を整備するため、実施設計を行います。

総合運動公園内の多目的広場を芝生化し、フィールドスポーツができるグラウンドに改修するため、実施設計を行います。

市民の健康寿命の延伸のため、株式会社平和堂との協働により、血圧や体組成が測定できる健康ステーションをアル・プラザ敦賀の店内に設置します。

以上が令和7年度当初予算の概要でございます。

続きまして、令和6年度3月補正予算について申し上げます。

3月補正予算につきましては、事業の完了や財源の確定に伴うもののほか、早期に予算措置を必要とするものについて計上いたしました。

国の補正予算を活用し、市内の消費拡大を図りながら、事業者の物価高騰対策の一助とするため、「ふくアプリ」による敦賀市内の登録店舗を対象としたプレミアム付きデジタル商品券を発行します。また、情報発信、新たなサービスの提供及び業務の効率化のため、敦賀市公式LINEを開設し周知・広報します。さらに、清掃センター整備及び中学校校舎照明のLED化等の改修を前倒しで実施する予算を計上しました。

次に、避難所の生活環境改善のため、市内10地区の公民館等を地域の防災拠点と位置付け、トイレ、キッチン、ベッドを中心とした資機材を購入し、避難環境整備を行います。

その他の予算といたしましては、職員の早期退職に伴う退職手当や、第97回選抜高等学校野球大会に出場する敦賀気比高等学校への激励費を計上いたしました。

以上が3月議会に提案いたします令和7年度当初予算及び令和6年度3月補正予算の概要でございます。